暮らしに役立つ情報満載

住まいるニュース

2019 10 vol.107

今月の特集

防災・減災・備災を考える

近年、激化する異常気象。
未然の計画で災害を防ぐ「防災」はもちろんのこと、
最近では、災害を最小限にとどめる「減災」、
必ず来るであろう災いに備える「備災」と、
災害に対する危機管理の考えが変化してきました。

今や「天災は忘れないうちにやってくる」時代

ひとえに災害といっても、地球温暖化を起因とする異常気象による暴風や豪雨、豪雪、洪水などの自然現象が原因のものから、人間や人間がおこなった行為が原因となるものまでがあります。日本において、ここ10年の自然災害を振り返って大きな被害をもたらした地震だけを取り上げても、東日本大震災や熊本地震、大阪北部地震、北海道胆振東部地震など、数多くの震災が発生しています。このほか、毎年のように多くの被害をもたらす台風や豪雨、豪雪、猛暑など、日本中どこにいても、いつどのような災害に遭うか分からない、予断のおけない状況が続いています。「天災は忘れた頃にやってくる」と言われた時代は過去のもので、今や「天災は忘れないうちにやってくる」時代に入ったのではないでしょうか。そして自然災害は時として想像をはるかに超える力で襲ってきます。その災害から自身や家族の安全、そして財産を守るには、事前の対策に取り組むことが何よりも重要だと言えるでしょう。

「防災」は災害を未然に防ぎ、被害を出さないための危機管理をすることですが、度重なる災害の経験から、最近では、被害を完全に防ぐことはかなり困難だということが認識されるようになり、災害発生時の被害を最小限に留めるための対策を講じる「減災」への意識が高まってきました。また、災害に備えて避難場所や避難ルートの確認、安否確認のための連絡方法を事前に決めたり、備蓄品や非常用持ち出し袋、緊急避難セットを家族の人数に合わせて準備する、家具の転倒防止や住宅の耐震補強を行うなどの「備災」、さらには災害対策への知識を高めて自身を守る「知災」の必要性への理解も広がっています。

災害から家族を守るには耐久性の高い住宅に住むこと

家族の命や財産を災害から守るには、耐久性の高い住宅に住むことが最も効果的な防災の一つだと考えます。大震災レベルの振動を再現した耐震実験を重ね、高い耐久性と強度、耐震性を持つ「FPウレタン断熱パネル」と、筋交い耐力壁、面材耐力壁との壁倍率比較テストでも最高の強度を実証した「FPの家」。東日本大震災では、九戸郡野田村でただ1軒、津波に耐え抜き、また、熊本地震で被害が大きかった上益城郡に建つ「FPの家」は、震災後、目立った破損もありませんでした。地震への強さの秘密は、一般の軸組工法に比べ、1.7倍もの壁組強度を誇るのが「FP工法」です。災害から家族を守る「FPの家」で、一緒に防災を考えてみませんか？

発行：株式会社 FPコーポレーション（本社／広報企画課）〒007-0842 札幌市東区北42条東15丁目1番1号 栄町ビル TEL：011-741-3382 FAX：011-795-3664